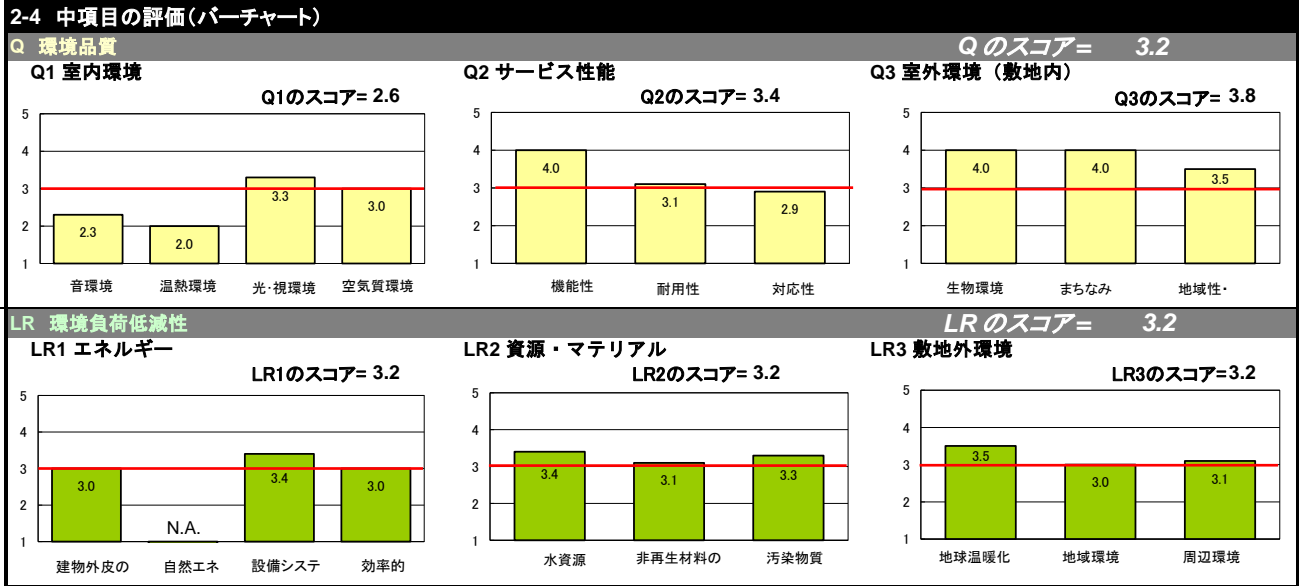
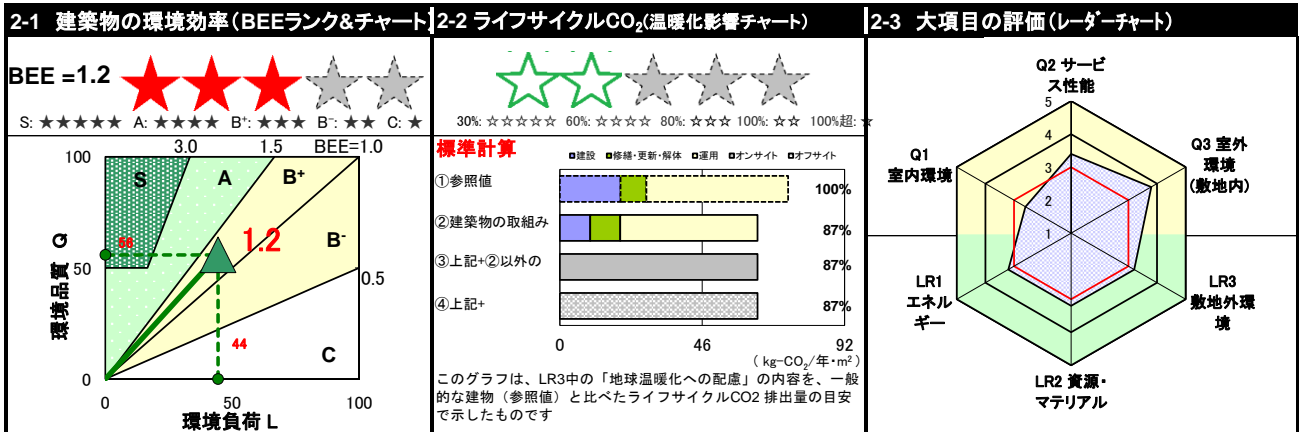


■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)駒沢3丁目PJ 新築工事	階数	地上3F、地下1F
建設地	東京都世田谷区	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	90人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年7月 予定	評価の実施日	2022年8月25日
敷地面積	1,653 m ²	作成者	野川 亜矢子
建築面積	1,026 m ²	確認日	2022年8月25日
延床面積	3,444 m ²	確認者	株式会社エル設計事務所



3 設計上の配慮事項

総合	その他	
<ul style="list-style-type: none"> 世田谷区に建設される集合住宅である。 空地の緑化により、環境負荷の低減に配慮している。 		
Q1 室内環境 ・開口部を大きくとり、昼光利用に配慮している。	Q2 サービス性能 ・各住戸に1Gbitクラスのブロードバンドを整備し、機能性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) ・空地部分を積極的に緑化し、緑による良好な景観形成、及び生物環境の保全に配慮している。
LR1 エネルギー ・断熱性能の高い建材を採用し、建物外皮の熱負荷抑制に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・ノンフロン断熱材を使用しており地球環境へ配慮している。	LR3 敷地外環境 ・深夜の滅灯等、周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
(仮称)駒沢3丁目PJ 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体		
		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質						3.2		
Q1 室内環境						2.6		
1 音環境						2.3		
1.1 室内騒音レベル		-		2.0	0.15	2.5	1.00	
1.2 遮音				1.0	0.50	2.0	0.50	
1 開口部遮音性能		-		1.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-		-	-	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-		-	-	-	-	
2 温熱環境				1.0	0.35	2.5	1.00	2.0
2.1 室温制御				1.0	0.50	2.0	0.50	
1 室温		-		1.0	0.63	1.0	0.63	
2 外皮性能		注:断熱等性能等級3~4である		1.0	0.38	3.7	0.38	
3 ゾーン別制御性		-		3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御		-		1.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		-		1.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				3.2	0.25	3.3	1.00	3.3
3.1 昼光利用				4.2	0.30	3.4	0.30	
1 昼光率		共:U \geq 2.5%、住:U \geq 2.0%		5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-		-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				2.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		-		2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度				1.0	0.15	1.0	0.15	
3.4 照明制御		共:タイマー、住:細かい照明制御が可能		5.0	0.25	5.0	0.25	
4 空気質環境				3.0	0.25	3.0	1.00	3.0
4.1 発生源対策				3.0	0.60	3.0	0.63	
1 化学汚染物質		-		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量		住:建築基準法の1.4倍以上の換気量		3.0	0.50	5.0	0.33	
2 自然換気性能		-		-	-	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-		-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.6	0.40	4.2	1.00	4.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		-		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		各住戸に1Gbitクラスのブロードバンドを整備		-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		-		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観		-		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュベース		-		-	-	-	-	
3 内装計画		共:インテリアパース等による事前検証等		5.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		-		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.7	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		日本住宅性能表示基準「3-1.劣化対策等級」の等級2である		4.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		タイル貼り		5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:シートフローリング、壁:ビニルクロス、天井:ビニルクロス		4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:ポリエチレン管、雑排水・汚水:塩化ビニル管、通気:耐火二層管		4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		-		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		-		1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、浸水対策、TVによる災害情報入手		4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.2	0.30	2.8	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり				-	2.6	0.50	
1 階高のゆとり	-			-	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	-			-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	1.00		-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性	配管配線方式の採用により、仕上材を痛めず更新・修繕可能		5.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出	敷地内にある生物資源の保全の計画がある		4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	まちなみに配慮した景観計画としている		4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	緑地の確保により、地表面温度の上昇を抑制している		4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	-		3.0	0.22	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化	BEIm:0.96		3.4	0.56	-	-	3.4
4 効率的運用			3.0	0.22	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	-			-	-	-	
4.2 運用管理体制	-			-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水コマ、節水型便器の採用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減	-		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別可能な構造		4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP<50の断熱材を使用している		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	高効率な設備機器の採用によるCO2の削減		3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止	-		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	ごみの分別容器の設置、有価物の計画的回収等		4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-			-	-	-	
3 日照障害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの一部を満たしている		4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

(仮称)駒沢3丁目PJ 新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	2.0	○	○	○	○	-	○	○	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		-	-	-	-	○	○	-	○	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-	-	○	-	○	-	○	○	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	3.0		○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	10.0		2.0	-	3.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	14.0		-	-	2.0	3.0	3.0	2.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0		-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	11.0		1.0	-	-	2.0	3.0	1.0	-	1.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0		1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 0.0%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 0.0㎡/人 病床 0.0㎡/床 シングル 0.0㎡ ツイン 0.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 0 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 0 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 0% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 0% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 0% 舗装面積率 0%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m - 断熱等性能等級 等級3 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 0.96 住宅 - 太陽光 0.0kW 太陽熱等 0.0kW 蓄電池 0.0kW
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 エコRC40 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 0% 隣棟間隔指標R _w - 地表面対策面積率 0.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積S _b ㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 0 m 基準高さH _b 0 m 緑地 ㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡